

令和 4 年 6 月 25 日現在

機関番号：30126

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K17416

研究課題名(和文) 看護師の道徳的発達段階と看護実践における倫理的課題の認識との関連

研究課題名(英文) Relationship between nurses' moral developmental stages and awareness of ethical issues in nursing practice

研究代表者

園田 典子 (sonoda, noriko)

札幌保健医療大学・保健医療学部・講師

研究者番号：60714384

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,900,000円

研究成果の概要(和文)：本研究の結果、倫理的課題を内在させた事例の捉え方として「看護師の立場から問題を捉えるケース」と「患者の立場にも思いを巡らせて問題を捉えようとするケース」の2つの観点が明らかになった。

「患者の立場にも思いを巡らせて問題を捉えようとするケース」は道徳的発達段階が第4段階にあり、事例に含まれる倫理的課題への気づきがあった。さらに事例を理解するために必要な追加情報についても多数の項目をあげ、思考の広がりがあった。道徳的発達段階には役割取得能力や認知能力が関連しており、それらの能力の発達が事例を捉える観点到影響を与えた可能性がある。

研究成果の学術的意義や社会的意義

近年、医療社会の高度化や高齢化率の上昇により、人々の「健康」「死」に対する価値観が多様化し、生活の質への関心が高まっている。それに伴い、患者・家族を支える看護師への期待が高まり、個別性がある対応を求められている。

道徳的発達は役割取得能力や認知能力によって発達することが明らかになっている。看護実践に含まれる倫理的課題への気づき、患者にとって最良の選択とは何かを思考し調整する上でこれらの能力は必要不可欠であり、看護師の道徳的発達は看護の質に影響を与えるものと考えられる。

研究成果の概要(英文)：As a result of this research, two viewpoints were clarified: the case where the case is grasped from the nurse's point of view and the case where the case is grasped from the patient's point of view. In the case of grasping the case from the patient's point of view, the moral development stage was the 4th stage, and there was awareness of the ethical issues included in the case. In addition, he asked for a lot of information to understand the case, and there was a widespread thinking. Role acquisition and cognitive abilities are associated with moral developmental stages, and the development of those abilities may have influenced the perspective of capturing cases.

研究分野：看護倫理

キーワード：看護倫理

1. 研究開始当初の背景

近年、医療の高度化や高齢化率の上昇により「健康」「死」に対する価値観が多様化している。さらに、生活の質への関心が強まり、社会の看護への期待が高まっている。看護の質の向上は看護教育全体の課題と言える。看護は、対象者との人間関係を基盤とし「その人らしく生きること」を目的とした倫理的活動である。看護師は対象者にとって何が最良の選択なのかを考え、判断しながら日々の看護を実践しており、この過程は看護倫理そのものである。Fry(2010)は、看護倫理を看護実践に見出される道徳的現象と位置づけている。看護に関わる判断や行為に看護師個人の道徳性が関連し、看護の質に影響を与えている可能性がある。しかし、これまで看護師の道徳的発達段階や道徳的発達と看護実践との関連を明らかにした研究は少ない現状があった。

2. 研究の目的

本研究は看護師の道徳的発達段階の調査および、道徳的発達段階別の看護師の看護実践における思考・判断を倫理的観点から分析し、その結果をもとに道徳的発達と看護実践との関連について検討することを目的とする。さらに、看護教育における道徳的発達の重要性や発達を促進する教育方法について示唆を得ることとする。

3. 研究の方法

(1) 研究方法

自記式質問紙調査による質的帰納的方法

(2) 研究期間

平成 29 年 12 月～平成 30 年 2 月

(3) 研究対象の選定

北海道および東北にある 500 床以上の病院で調査協力に同意が得られた施設に就業する中堅看護師 335 名を対象とする。

(4) データの収集方法

基礎データとして、性別、年齢、結婚、子どもの有無、看護教育最終学歴、臨床経験年数、経験病棟、役職、看護倫理に関わる研修の受講歴を確認する。

以下 2 種類の質問紙(無記名自記式)を用いてデータ収集を行う。質問紙配布にあたっては、研究目的、倫理的配慮、問い合わせ先を明記した説明文書を添付し、調査協力の得られた病院の看護部から、各病棟の看護師長を通して配付を依頼する。回答用紙は、個別に返信用封筒を用意し、プライバシー保護に十分配慮した上で研究者へ返送されるようにする。質問紙配付から回収までの期間は 6 週間程度とする。

Kohlberg 理論に基づいた「DIT (Defining Issues Test) 日本版 青年期における道徳判断の発達測定のための質問紙」を用いて道徳的発達段階を調査する。

本研究が具体的な事例を取り入れて作成した「日々の看護実践において認識している倫理的課題と対応についての質問紙」を用いて、看護師の倫理的課題の捉え方や看護実践における思考・判断について自由記載で解答を求める。

事例には患者の安全を守るために抑制をすることで、看護の基準である安全・自立・自律が対立する場面、看護師の対応によって患者の自尊心が傷つく場面を設定した。事例に登場する看護師 B は、道徳的発達段階の第 3 段階「慣習的水準」の特徴を取り入れ、研究対象者が看護師 B に共感・批判的な考えを持つことで、道徳的発達段階と看護実践のつながりが見えるように意図している(表 1)。

(5) データの分析方法

対象者の概要と道徳的発達段階との関連を明らかにする。さらに各道徳的発達段階の看護師がどのようなことに倫理的課題を感じ、看護実践においてどのような思考・判断をしているのかを明らかにする。

Kohlberg の方法に基づいて看護師の道徳的発達段階を算出し、全体の傾向を確認する。さらに、年齢や臨床経験年数などの基礎データと道徳的発達段階との関連を検討する。

「日々の看護実践において認識している倫理的課題や対応についての質問紙」で得られた結果から、事例の中にも含まれる倫理的課題への気づき、矛盾や価値の対立を調整するための思考・判断等の倫理的観点を含むデータを抽出する。その後、データの意味内容を損なわないよう概要をまとめ、内容別に命名する。

と の結果をもとに各発達段階にある看護師の看護実践における思考・判断の共通性・相違性を明らかにし、看護師の道徳的発達段階と看護実践との関連について検討する。

(6) 倫理的配慮

本研究が、施設責任者と研究対象者に対し、書面で以下について説明する。質問紙の返送を持って同意を得たものとする。なお、本研究は札幌保健医療大学研究倫理委員会の承認を受けて実施した。

研究の目的・方法

本研究への協力は自由意志によるものであり、強制するものではないこと

本研究の協力はいつでも辞退でき、不参加による不利益はないこと
 データは厳重に管理し、本研究以外にデータを使用しないこと
 データは研究終了後 10 年間は厳重に管理し、その後内容が特定されないように破棄すること
 本研究あるいは関連学会における発表に、個人情報保護の上で結果を公表すること

水準：慣習的水準以前		TotalD得点
第1段階	【罰と服従への志向】 権力への服従と罰を避けることに価値が置かれる。	100点台
第2段階	【道具主義的な相対主義志向】 自身の欲求を満たすために他者の欲求を満たすという人間関係の取引が見られる。公平、相互性、平等な分配という要素は含まれているが、それらは常に物質的で実用主義的に解釈される。	200点台
水準：慣習的水準		
第3段階	【他人同調的、良い子志向】 良い子志向であり、他者に同調し、喜ばせ、助けようとする。多数派の行動あるいは普通の行動という慣習化されたイメージに自分を同調させる。	300点台
第4段階	【法と秩序志向】 法と秩序を守り、社会的秩序を維持することに価値が置かれる。	400点台
水準：慣習的水準以降		
第5段階	【社会契約的な法律志向】 第四段階と同様に法を重んじるが、社会的利益についての合理的な考察によって法を変えることも強調される。私的な価値観や見解の相対性を明確に意識し、一致に達するための手続き上の基準を強調する。	500点台
第6段階	【普遍的な倫理的原則の志向】 普遍的な倫理的原理の志向となり、良心に従って行動するという特性を持つ。	600点台
永野重史編：道徳性の発達と教育 コールバーグ理論の展開，初版，新曜社，1985をもとに著者作成		

4. 研究成果

(1) 事例に含まれる問題の捉え方と倫理的課題の認識

本研究の結果、事例に含まれる問題について「看護師の立場から問題を捉えるケース」と「患者の立場にも思いを巡らせ問題を捉えようとするケース」が明らかになった。

「看護師の立場から問題を捉えるケース」は、事例に登場する看護師Bの判断や行為を肯定的に捉えていた。説明や同意の有無といった手続き的な問題、抑制方法の適切性について問題を感じていたが、事例に含まれる倫理的課題への気づきは無かった。一方、「患者の立場にも思いを巡らせ問題を捉えようとするケース」では、説明や同意の有無といった手続き的な問題と同時に、患者の置かれている状況についても思考し、抑制に留まらず、看護師Bの行った看護ケアに対する判断について問題を感じていた。さらに、看護の基準である安全・安楽を守ることと患者の自尊心を傷つけてしまうことに葛藤を生じており倫理的課題への認識があった。Fry(2010)は、「倫理的意思決定の準備として、最初の課題は看護師と患者双方の価値を考慮することである」と述べており、看護実践に含まれる問題に気が付くためには、そこに関わる人々の価値への気づきが前提となることを示している。今回、事例に含まれる問題の捉え方について2つの傾向が示されたことは、問題を捉える観点や看護の専門的価値への気づき、倫理的課題への認識に相違があったと言える。

(2) 道徳的発達段階と看護実践との関連 (表1)

道徳的発達段階の第3段階、第4段階は「慣習的水準」に分類される。第3段階は、他人に同調的であり多数派の行動あるいは普通の行動という慣習化されたイメージに自分を同調させ、第4段階は、社会秩序を守ることに価値をおくという特徴がある(永野,1985)。また、道徳的な発達は認知的刺激や役割取得能力が関連していることが明らかになっている(塚本,1998)。

本研究の結果「患者の立場にも思いを巡らせ問題を捉えようとするケース」は、道徳的発達段階が第4段階であった。他者の立場に立ち、気持ちを押し量り調整を取るといった役割取得能力が発達している可能性があり、事例を捉える観点に影響を与えた可能性がある。看護実践を考えるために追加で必要とした情報についても、第3段階と比較して項目数が多く、認知能力の発達が影響し思考の広がりにつながった可能性がある。

看護師は患者にとって何が最良の選択なのかを考え、判断しながら看護を実践していく。そのためには目の前の問題に関わる人々の価値を見極め、患者にとって最良の選択となるよう調整をしなければならない。他者と同調する、規律を遵守することに重きが置かれれば、看護の質に影響を与える可能性がある。看護実践は、日々直面する倫理的課題に対して思考し、判断するこ

とを求められる。倫理的な看護実践であるかを常に考えることが大切であり、より高次の道徳的発達段階にあることが望ましいと言える。

(3) 看護教育における道徳的発達段階の重要性

本研究の結果、倫理的課題への認識があり、倫理的な看護実践について考えている看護師は道徳的発達段階が高かった。本研究者の先行研究（芹田, 2012）でも同様の傾向を示している。道徳的発達段階に関連する役割取得能力、認知能力は、看護実践に含まれる倫理的課題への気づき、患者にとって最良の選択とは何かを思考し調整するための手がかりを与えてくれる。より高次の発達段階の思考に触れる機会や他者の立場に立って考える経験をする機会を設け、道徳的発達を促進するような工夫を看護教育に取り入れていく必要がある。

< 引用文献 >

- 1 . サラ T. フライ, メガン・ジェーン・ジョンストン著, 片山範子他訳 (2010) : 看護実践の倫理【第3版】倫理的意思決定のためのガイド. 日本看護協会出版会.
- 2 . 永野重史編 (1985) : 道徳性の発達と教育 - コールバーグ理論の展開. 初版. 新曜社.
- 3 . 塚本尚子, 石川ふみよ, 下枝恵子, 他 (1988) : 看護ジレンマ場面における道徳判断の発達と社会的相互作用の関連性の検討. 東京保健科学学会誌, 1: 7-10.
- 4 . 芹田典子 (2012) : 臨床看護師の道徳的発達段階と看護実践との関連. 旭川医科大学大学院修士論文.

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 園田 典子	4. 巻 第3号
2. 論文標題 看護分野における道徳的発達に関連する研究の動向と課題	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 教育と人格	6. 最初と最後の頁 21-32
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 園田 典子
2. 発表標題 看護師の道徳的発達段階と看護実践における倫理的課題の認識との関連
3. 学会等名 日本看護学教育学会
4. 発表年 2022年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------